

見てわかる立命館大学の国際化

国際教育推進機構 准教授 羽谷 沙織



■ グローバル・アジア・コミュニティに貢献する学生求む！

立命館大学は、1900年に西園寺公望を学祖として創設して以来、1988年の国際関係学部開設を皮切りに、国際化を進めてきました。ひとつの社会のなかで異なる人種、宗教、言語を持つ集団と集団が平和的に暮らしていく社会のあり方を多文化共生と呼びます。立命館大学は、そのような多文化社会のなかで、とくにアジアの様々な文化的背景を持つ人々と共に働き、新しい価値を生み出す学生を育てたいと考えています。

▶ スーパーグローバル大学としての立命館の魅力



図1 グローバル大学立命館としての国際化の概念図

2014年、立命館大学はスーパーグローバル大学に選ばれました。グローバルな大学とはどのような場所なのでしょうか？たとえば、本学のグローバルな側面としては、本学から海外に留学する学生数が多いことが挙げられます。2014年度に留学をした学生は1,675名でした。2023年までに3,200名を送りだしたいと考えています。留学先に応じて、英語に限らず、中国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語を学習する機会があります。とくに近年は中国、韓国、シンガポール、インドネシア、タイなどアジア留学を目指す学生も少なくありません。

また、留学生受け入れ数が多いことも特徴です。たとえば、2014年度は1,400名を超える留学生(短期留学生含む)を受け入れましたが、2023年までに4,500名に増やしたいと考えています。

左は、本学の国際化のイメージを図にしたものです。木の根元にある教育理念を見てください。私たちは、国内学生と国際学生と一緒に学びながら国際相互理解を進めること、そこから差別や偏見のない多文化共生の学園を作っていきたいと考えています。

国際相互理解を進めること、そこから差別や偏見のない多文化共生の学園を作っていきたいと考えています。

■ グローバル・キャンパスで学びの場を広げよう

みなさんが、少しでも外国のことに関心があるならば、まずは、キャンパス内での国際交流を始めてみませんか。さらに本格的な国際経験を身に着けたい人には、留学をしてみることをお勧めします。

▶ オン・キャンパスでの国際交流

外国のことに関心はあるけれど、経済的に心配、語学力が伸び悩んでいるなど、なかなか留学に踏み切れない学生は、キャンパス内での国内交流をしてみるのはいかがでしょうか。立命館大学は多くの海外の大学と協定を結んでいます。2014年度は50もの国と地域から、総勢1,400名を超える留学生が本学で学びました。留学生は、たとえば Study in Kyoto Program において日本語や日本文化を学んでいます。彼らは日本の学生と友達になりたいと思っています。彼らと一緒に授業を受講したり、キャンパスで活動と一緒にしたりするのはどうでしょうか？たとえば、異文化交流科目(教養B群)では、日英両語または英語を使って文化背景の異なる仲間と共に学びます。授業外でも、学生団体 TISA(Tutors for International Students Assembly)や SKP パディ制度に登録して、留学生の生活のサポートをすることになれば、キャンパスにいながらにして国際交流ができます。



Global Gateway Program のなかで留学生と本学学生と一緒に授業を受ける様子。当日は、フロリダ国際大学からの短期留学生が母校の特徴について話をしてくれました(左)。Study in Kyoto Program を通して本学で学ぶ留学生の日本文化授業風景(右)。

▶ 海外留学プログラム

留学したいと考えている人は、国際教育センターへ足を運び、ぜひ留学パンフレットを入手してください。国際教育センターのホームページでも情報を入手できます。立命館大学には、大きく3つの留学プログラムがあります。①イニシエーション型(初級、およそ4週間、語学研修、異文化体験)。②モチベーション向上型(中級、2週間～1学年間の期間、テーマに沿った外国語による講義を受講)、③アドバンスト型(上級、1セメスターから最大2年間、単位・学位取得を目的、専門分野の学習を外国語で受講)です。

たとえば、「外国に行った経験がないから、まずは語学研修として短期間留学したい」という場合は、イニシエーション型を選ぶことをお勧めします。一方、「政策科学部で日本の都市計画について学んでいるから、イギリスの都市計画と地方行政のかかわりについて学びたい」という場合、アドバンスト型の交換留学を目指すことが適切と言えるでしょう。自分の目的に合ったプログラムを選ぶことが大切です。アドバンスト型の交換留学に参加するには、現地語(たとえば英語)の授業を聞き、他の学生と議論することができる、学期末に現地語でレポートを書くことができる、単位を取ることができるスキルが必要です。語学力としては、TOEFL iBT® 61以上、IELTS5.5以上が必要です。どのプログラムを選べばよいのか分からない場合は、自分の留学に対する「希望」と「制約」(たとえば、語学力、成績、資金など)について考えてみましょう。一番よく自分に問いかけてほしいのは、「留学中に何を学びたいのか」です。